東由利村報

No.158　1970・10・1

発行　秋田県東由利村役場　印刷　KK本間印刷所

毎月1日発行（1部8円）昭和42年7月21日第三種郵便物認可

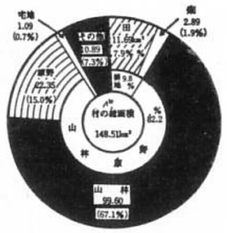
世帯と人口

世帯数	1,588世帯
人口	7,329人
男	3,625人
女	3,702人

前月に比し世帯は2の増
人口は5の増

財政

一般会計	335,538千円
特別会計	88,666千円
内訳 国保	86,106千円
内訳 黒診	792千円
内訳 簡水	1,400千円
内訳 玉財	368千円

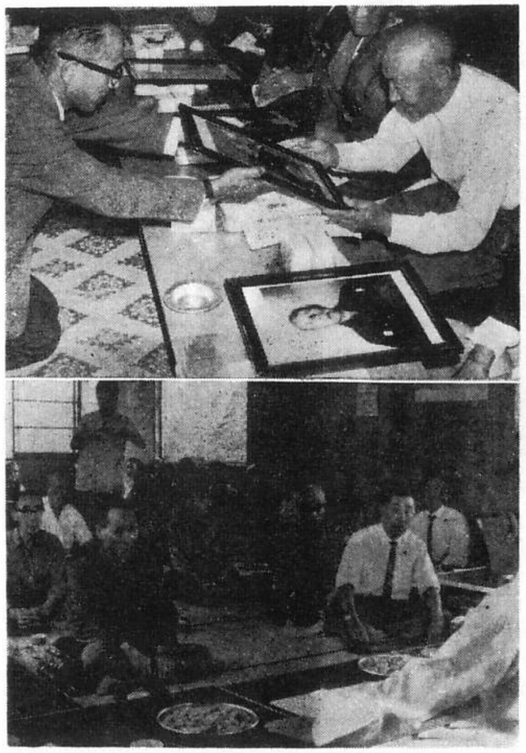


移動村民室

八月三十一日、蔵地域住民約六〇人が集まり、役場からは小松村長ほか各課長らが出席して、移動村民室が新田児童館で開かれた。この日の話題は、広域市町村圏設定にともなう住民福祉のこと・河川の汚染による水泳プール建設のこと・学校児童減にともなう教育効果と小学校統合のこと・基盤整備と小規模経営の悩み・脳卒中防予防策に保健婦の部落巡回の希望・牧道整備補助の増額・地域内道路の改修のこと・公民館分館活動費の早期給付・水道事業の受益者負担額を早く明示がほしい・学校給食は副食のみになど活発に交わされた。

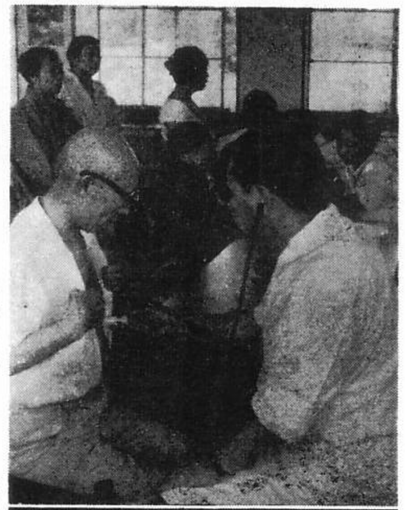
また、九月五日には地域住民約三五人、役場からは村長以下各課長らが出席して、下吹・大平荘で開かれた。話題は、土場沢線の改良計画・宿下吹地区の基盤整備事業・中学校遠距離通学費補助・奥地にまでゆきわたる除雪計画・地域内の作業道の整備などで意見が交わされた。

なお、移動村民室は、地域のもりあがりにより、地域が自主的に計画していただいております。希望する部落がありましたら、役場の総務課企画財政係が窓口ですので、相談してください。



上、掲額写真に顔もほころぶ（大琴）下、村長を囲む老人クラブ研修会、若々しい顔が並ぶ

好評の掲額写真
地域の企画で村民室



上、老人健康コンテスト風景。下、移動村民室では活発な話合いがされた（大平荘で）

敬老会……本村の敬老会は九月十三、十四の両日、各小学校区ごとに行なわれた。敬老会は村内七〇歳以上のお年寄り三六〇人が対象であり、このうち八五歳以上の方六人には、県から祝い状と祝い金が贈られた。また八〇歳以上の方三六人にはことしから始めて掲額写真を贈り喜こばれた。ことし八〇歳に達した五人の方には、ますます健康であるようにと鳩杖を贈り、敬老会の新入生ともいうべき、七〇歳に達した方五四人の中から、医師の診断により（老人健康コンテスト）、ことに健康に優れた方八人を選んで記念品が贈られた。四十三年度から行なっている結婚生活五十年を経られた、金婚七組には、祝い状と記念品が贈られた。

老人ク研修……話せる・好かれる・役だつお年寄りになろうと、このところ本村老人クラブでは、その研修に懸命である。さる九月十七日、地下ノ沢会館に約五〇人が集会して、由利福祉事務所、家庭相談員の木原先生からお話をきくほか、午後からは小松村長を囲んで、村政の動向などを勉強、また先日の（袖山）不幸事を繰返さない仲間づくりを誓い合った。

暮しよさ追求に国が高率補助
諸事業に国が高率補助

本村の過疎地域振興計画は、昭和四十五年度から四十九年度までの五か年を一期間とし、①基本的な方針②交通通信体系の整備③教育文化施設の整備④生活環境施設等の厚生施設の整備と医療の確保⑤農林水産その他産業の振興⑥集落整備の六項目からなっている。

この計画は、自治省が、人口の急激な減少に悩む全国七七六市町村（県内では一四町村）に対し、国が高率補助をはじめ、元利償還金の五七％を地方交付税で補てんするという過疎債、住宅金融公庫資金や農林漁業金融公庫資金の優遇貸しつけなどのテコいれにより、生活環境をよくして〝過疎からの脱出〟をめざすよう、これら町村の意欲ある計画が期待されており、計画の実施には村民の大きな協力が望まれている。

過疎からの脱出

まず本村の概況として、平地に乏しい地形・中心地でも一・三四㍍の積雪と半年は雪にうずもれる気象のもとでの生活・一農家あたり一・一㌶で営まれる農業が基幹産業であると述べている。

また、人口の推移と動向では、出生や転入が減り、ことに一五歳から三〇歳未満の若い労働力が都会に流出、急速な人口の減少傾向にあり、昭和三十五年には九、〇八一人同四十三年には七、七一三人あった人口が、このままの状態で行くと昭和五十年代では六、五〇〇人前後と予測、年齢構成では、生産年齢層は増加するが、なかでも中高年齢層の割合が増して、いわゆる人口の老齢化が進むとみている。

将来とも稲作中心 工場進出にも期待

産業の推移と動向では、本村産業の中核をなす稲作農家の、総世帯中に占める割合は七三・二％（四十四年で一、一五九世帯）と大半であり、わずかずつ減少傾向にあるものの、将来とも大きな変化はないと考えられる。

しかし一農家あたりの平均耕地面積は一・一㌶と零細であり、生産額も過去の高米価に支えられて、昭和三十五年に比べ二・八倍の八十九万三千円（村全体では十億三千五百万円）には達したが、今後大幅な伸びは期待できない。

その他の産業では、林業とこれに結びついた製材業などが中心となり、四十三年で、三十五年に比し約一〇倍の二億九千万円の工業出荷額をあげているが、近年は工場進出もあるので、今後、大幅な伸びが期待される。

その背景に、いま都市では労働力事情が悪化しており、工場の地方進出が増す傾向にあるので、本村としては人口労働力の流出防止のうえからも、積極的な受け入れ体制を整える必要がある。

広域行政圏設定で需要消化を拡大

村行政の状況では、広域体制で処理しなければならない分野が増している。そのため現在、本荘市を核に行なっている、伝染病隔離病舎・衛生処理・養護老人ホームなどの一部事務組合。市郡地域総合開発促進・市郡視聴覚ライブラリー・由利地域税務事務共同処理・由利地区冬期交通確保促進などの協議会。救急業務の事務委託に、さらに四十五年七月十三日付による広域市町村圏の設定を機会に、広域行政の積極的な推進が必要になってくる。

少ない自主財源 建設には計画性が

財政の状況では、まず問題点を拾っている。①歳入のうち村税の占める割合は、過去三か年平均で一三・四％であり、村税その他の自主財源（過去三か年平均二七・六％）が、いかに少ないかを示している。したがって、いきおい交付税や起債にたよらざるをえない。②歳出のうち、とくに多い維持修繕費は、村道の維持費、学校数などが多いことに起因しており、根本的な整備、あるいは改良以外に解決のめどはない③投資的経費は過去三か年平均で一億百余万円であり、うち一般財源の投入は四千二百余万円であるしがたって補助金や起債への依存度が高く建設事業をする場合には、その財源確保と一般財源の状況を十分に検討し計画的にしなければならない、などである。

道路・学校・水道 産振ら目白押し

本村をとりまく、いろいろな要素をふまえて、いわゆる経済力を養い、住民の生活水準を向上させ、豊かな人間性を育む生活環境のために、何をしなければならないかを、振興の基本方針として挙げている。

①交通条件をよくする。主要村道を幅員四㍍以上に改良し、木橋の永久化と冬の除雪体制を充実強化し、バス路線と主要集落間の冬期交通を便利にする。②教育効果を高める。児童生徒の数が、年々減少しているので、適正な規模での教育効果が期待できるよう、いま進行中の中学校統合校舎の完成とともに、小学校統合を進め、あわせて通学利便の方法と給食施設を整備する。③簡易水道。生活環境施設は、もっとも立ち遅れている。簡易水道の拡充をはかりまた、ごみ・し尿処理・老人母子福祉施設・常備消防などを、本荘、由利の広域行政体制で整備する。④産業振興。稲作の生産性をねらい圃場整備を進める。また農外所得を確保するため、企業を積極的に受けいれる体制を整え、これら企業に対する税制上の優遇措置を考える。⑤集落の移転。村の奥地にあって、日常生活に不便をしている小さな集落を、その地域の住民と十分相談の上で、移転の方向で助成をする。【次回は具体的な対策をけい載】

農業委員会長に 遠藤孫助氏

本村農業委員会では九月二十五日会議を開き、阿部直一郎会長の死去にともなう後任人事を協議、つぎのとおり選任した。

会長には遠藤孫助氏（前、会長職務代理）。会長職務代理には佐々木直三郎氏。県農業会議会議員には佐藤与吉郎氏。なお、東由利農協推せんにより選任された委員は小松鉄郎氏である。残任期間は四十六年四月二十九日。

秋の農作業協定賃金

稲刈り（手刈り）	東刈り	10円
バインダー	普通田 10アール	2.500円
脱穀	1東	8円
もみすり 1俵	動力	80円
	動力無	90円
精米	うもちる	120円
		240円

心の油断にも力ギ

農繁期は、あき巣にねらわれるシーズンでもあります。戸じまりはもちろんですが心の油断にもカギをかけましょう。村内の防犯連絡所はつぎのとおりです。

板戸、大塚菊治郎。松沢、小松与惣雄。館合新田、高橋忠一郎。田代、渡辺隆蔵。高戸屋、佐藤八郎。黒淵、川尻幾郎。向田、小松正之助。泡ノ淵、横山治三郎。小倉、遠藤兵一。野田、阿部次郎。十二ノ前、阿部重一。祝沢、小笠原清一郎。宿、小野喜代蔵。蔵新田、小野松雄。舟木、大庭時雄。須郷、高橋米治郎。沼、鈴木茂。横渡、小笠原豊吉。大琴、石綿国雄。

キノホルムに注意

キノホルムやキノホルムを含む薬が、新聞テレビなどで報道されていますが、この薬は、当分の間全国的に販売を中止することになりました。

下痢止め、整腸剤として各家庭で使われているなかで、医薬品の外箱の成分分量の欄に、キノホルムまたは乳化キノホルムが含まれているものは使用を中止してください。

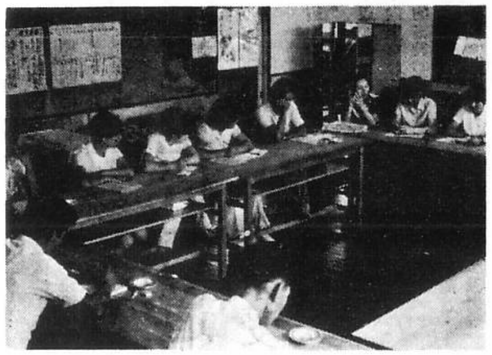
今月の行事

1日・村税完納運動月間
・国勢調査
・赤い羽根共同募金運動 12月31日まで
6日・秋の全国交通安全運動 15日まで（とくに子どもと老人を交通事故からまもる）
8日・百日せき・ジフテリア破傷風予防接種（二回目）宿小、袖山小で
9日・同、蔵小、法内小で
10日・体育の日
12日・同、老方小、玉米小で
13日・同、住吉小で
15日・玉米小で三歳児検診
16日・蔵小で同
18日・22日まで3日間秋の狂犬病予防注射に村内の拠点を巡回

自動車税忘れずに

十月は自動車税二期の納期です。自動車税は年二回、今回が最終納期です。期限内に忘れないで納めてください。納税貯蓄組合に加入の方は組合に対し一定の割合で補助金が交付されますから、各組合長に渡してある納税済証を使用してください。

テーマは悩みのシリーズ



農村青年に広域的な研修の場を、という第二回由利郡東部青年の集いは、九月六日、新装なった本荘高校下郷分校に鳥海・矢島・由利・東由利の四町村の青年七〇人が集まった。

このたびの話合いテーマは〝悩みのシリーズ〟であり、第一分科会では家庭生活での、第二分科会は社会生活での、第三分科会は経済生活での、第四分科会は仲間づくりでの青年の悩み。話合いの深まりから、青年の孤立感をぬぐい去って、対社会意識の高まりと連帯感を育てよう、というのが主催者の県教育委員会四町村教育委員会の弁。

仲間づくりの悩み会場をのぞくと、ある女子青年が意見を述べていた「生け花・茶道・レクレーション、とにかく集会を多くもち、参加することにしているし、そういう中で仲間づくりが進む」。ある青年は「公民館が行なっている各種ゼミナールは、相互に活動の調整が必要なので、青年会の中につくればよい」という青年会活動の目玉商品が侵されるという意見。本村の一青年は「何のための活動かを、根本的に考える場が生まれるような仲間であり たいし、ただ漫然とした今日的あり方は反省したい」など、青年会活動の根源をさぐろうとする活発な意見が交わされていたが、欲をいうと、もっと話合いに、相手の真意を吸みとる意欲と、提示された問題点への突っこみがほしいところ。

午後からは、ゲームによる心のふれ合いを求めて、地域混成のチーム編成で、バレーボール競技を楽しんだ。

昭和42年7月21日第3種郵便物認可

東由利村報

昭和45年10月1日　第158号

辺地債で道路計画

企業受け入れに税免除

第六回本村議会定例会は、九月二十二日に招集された。上提議案は一〇件であり、その中から主なものを拾うと…。起債（借金）の八〇％が地方交付税に、かさ上げして交付される辺地債による道路と橋の改良計画。地域振興に結びつく工場新設に対し、固定資産税を免除できる条例の制定。安心して出かせぎができるようにと、県、村が資金を出し合い、就労先での死亡・病気・賃金不払いに対処する〝秋田県出かせぎ互助会〟への予算を補正予算に計上した。

▼辺地の総合整備計画を定める。

辺地住民の生活、文化水準の向上をねらって行なう、公共的施設整備の事業には、国が資金を貸しつけ、その貸しつけ資金の八〇％だけ国が地方交付税に増額交付する辺地債の制度がある。

そこで村では、昭和四十五年度から四十九年度にいたる五か年間に、つぎの事業を行なう。

①館合・下小路―跡見坂間（跡見坂線）の道路と同線上の牡丹野橋（永久橋に）を約二千万円で全面改良。②宿・下吹―須郷間（土場沢線）の道路と同線上の下吹橋（永久橋に）を約二千万円を投じて改修する。③館合・久保橋を五百五十万円で永久橋化。④黒淵・向田橋と地下の沢橋の二橋を千六百万円余で永久橋化。⑤宿・根小屋線の道路を自動車の通行ができるよう千二百万円で改修する。⑥遠距離生徒の学習の便をはかるため統合中学校に約二千万円をかけて寄宿舎を建設する。

▼過疎地域振興のため固定資産税を課税免除する条例制定

自治省は四十五年五月一日過疎地域対策緊急措置法に該当する地域を公示したが、その公示日以後に取得した工場また土地にあっては、公示日から一年以内に工場建設をした場合には、申請があれば固定資産税の課税を免除できることとした。

その基準は、設備の取得価格が五百万円以上であり、常時雇用者が十人をこえる規模とされ、三年度につき免除される。なお、免除した税額のうち重度の障害補償年金の七五％にあたる額は、地方交付税が補てん、増額交付される。

▼教育委員会委員の任命に同意。五人の委員のうち一人が任期満了、蔵字新田、佐藤欽次郎氏（明治三十九年十一月二十五日生）を再任。

▼監査委員の選任に同意。二人の木村監査委員のうち、知識経験者から選任する委員の任期が満了したので、老方、長谷山理一郎氏（大正五年十二月一日生）を再任。

▼議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償条例の一部改正。遺族年金を支給する場合、遺族の数による加給割合を高めると共に、障害補償のうち重度の障害補償年金の支給額を改善した。

▼町村職員退職手当組合規約の一部変更。鷹巣合川地区消防一部事務組合・本荘市由利郡養護老人ホーム組合・本荘由利地域衛生処理組合らが、新たに加入するため。

▼市郡視聴覚教育協議会規約の一部を変更。大内町が町制施行したための字句変更。

▼四十五年度村一般会計の補正予算（四回目）。千二百四十八万一千円を追加して総額を三億三千五百五十三万八千円とした。主な使途は▽登記所新築工事費に追加十五万円▽本荘由利広域市町村圏組合負担金十万一千円。▽出かせぎ互助会へ十八万三千円。▽水田の集団転換補助七十三万八千円。▽航空農薬散布補助十七万円。▽法内字小倉の農道橋に補助十万円。▽林道金山線（沼地内）の緑化工事三十万円。▽九重滝（大台）地すべり工事七万一千円。▽後田線ほか六線の道路修繕七十九万七千円。▽蔵―上里線ほか一般村道への砂利百二万五千円。▽上里線十七万円。大釜線十五万円。湯出野線十万円台山線八十五万円。ボッメキ線十八万三千円などの道路改良。▽定時制高校体育館の附帯工事三百三万五千円▽蔵小学校教員住宅・法内小学校水道・宿小学校の屋根などの修繕料三十五万七千円。▽交通安全教材十一万五千円▽統合中学校の浄化そう流送工事費八十五万円。▽新沢線あざみ平の災害復旧工事十五万三千円。

▼四十五年度村国民健康保険特別会計補正予算（一回目）二百五十万六千円を追加して総額を八千六百十万六千円とした。

▼四十五年度簡易水道特別会計補正予算（一回目）。四十二万円を追加して総額を百四十万円とした。

土場沢線 改良に希望

村政報告

本会議に先だち小松村長が最近の村政の動きを報告した①下吹橋は百五十万円で広川精治。下吹線道路改良は二百三十四万円で佐々木直松。軽井沢林道の災害復旧工事は九十七万五千円で佐藤徳一の各氏に九月十日それぞれ発注。②統合中学校第二期工事の進渉状況は八月十二日三〇％出来高に対し支払いするなど順調である。③かねて新築中の法務局下郷出張所庁舎は、九月二十四日ごろには完成の見込みである。④蔵―大曲線（いわゆる法内県道）のつぶれ地問題は、ようやく解決のメドがついた。⑤水道施設のため、水源の調査を進めているが、ことしの異常渇水により、大ボッメキからは八〇〇トン台の水量が得られる反面、小ボッメキは涸渇、湧水はゼロを記録したままである。したがって他からの水源確保が必要となった。⑥土場沢線改良は県営林道事業として採用方を強く働きかけていたが、県では国に対し、前むきに接渉するということである。

出かせぎ互助会 加入のすすめ

各種見舞金が中心

安心して出かせぎができるようにとねがい、県と市町村がいっしょになって「出かせぎ互助会」をつくることとなり、出かせぎされる方全部の加入を呼びかけています。

会員になるには

現在住んでいる村を離れ、家族と別居しながら、三十日以上一年末満の間、他地域の事業所などに雇われて働いたのち、帰郷される方です。就労先は県内外を問いません。とりあえず役場の中にある「出かせぎ相談所」に申し込んでください。また、就労先や就労期間が決ったら、会費二〇〇円（年額）を届けてください。ほかに村が対応額の二〇〇円を負担します。

互助会の働きは

東京都などに相談員をおいて、できるたけ事業所をまわり、会員の相談に応じます。（巡回範囲は、東京・千葉・神奈川・埼玉・愛知・北海道です）。

毎月第三日曜日の「家庭の日」に、家族と互いに手紙をとり交わしていただくため、絵はがきをさしあげます。会員の健康診断を無料で行ないます。

会員五人に一部の割で「秋田さきがけ新報」を毎日送ります。また県広報月刊「あきた」を送り、さらに郷土の広報「東由利村報」を毎月送ります。

不幸にして就労先で亡くなられたときは、家族の方に見舞金三十万円さしあげます。（ただし交通事故による場合を除きます）。

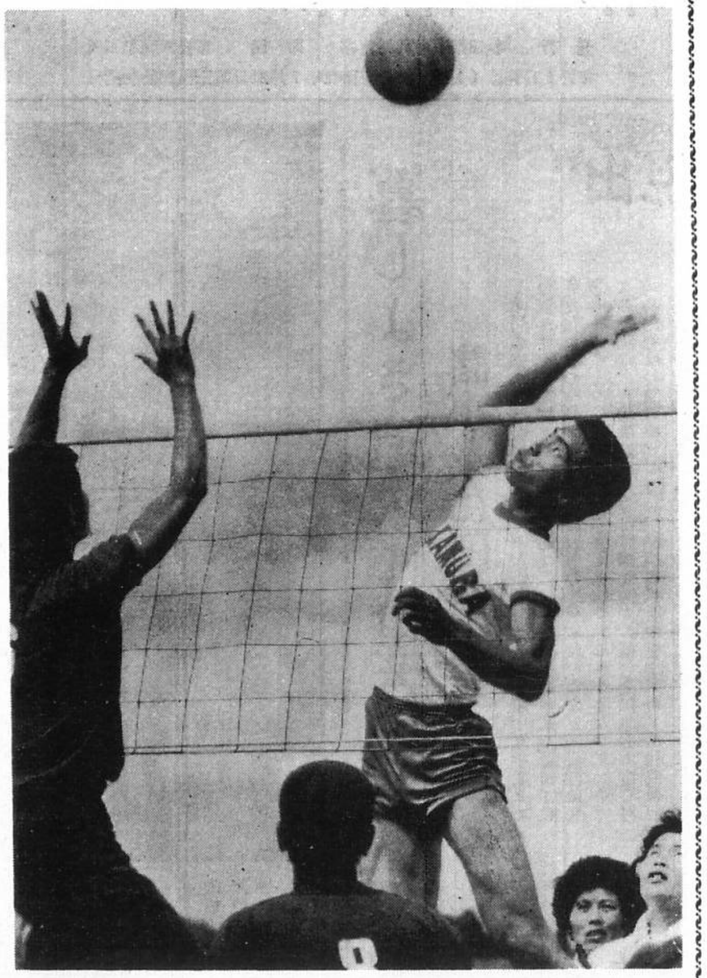
就労先で一か月以上休んで医師の治療をうけなければならないような災害にあったり病気にかかったりしたときはその期間に応じて見舞金三～五万円さしあげます。

就労中、留守宅が半分以上焼けるような火災にあったときは、見舞金五万円さしあげます。

就労先で賃金が支払われないときには、賃金の六割を立替えます。（賃金を支払うことになっている日から十日以内に賃金未払確認書をつくり最寄りの労働基準監督署に申告すると同時に、互助会に連絡した場合に限ります）。

高村強し三連勝

晴天下応援にドッと



▲ 高村チームは、この黄金の腕で、三連ぱを勝ちとつた。蔵との対戦

▼ 堂々の選手行進（法内）応援席からは拍手が湧きおこる

本村公民館・教育委員会主催の「第三回村民体育大会」は、八月二十九日好天の台山グランドに、全村から多勢の人波がよせて開かれた。

この日のメーン・エベントは家庭バレーボール部落対抗で、高村チームの三連ぱ成るか。阻むとすれば、それは、どこかであった。しかしことしも高村チームの攻めては工藤真市の鋭いスパイク、守ってはねばりの堅陣は揺るがなかった。準決勝で敗れはしたが、フルセットにこぎつけた大琴Bチームの健闘がわずかに光った。

◇家庭バレーボール

【部落対抗・参加一四チーム決勝】

高村　2―0　蔵A

【四一歳以上対抗・参加六チーム・決勝】

蔵　2―0　住吉

【夫婦対抗・参加七チーム・決勝】

袖山　2―0　蔵

【職場対抗・参加九チーム・決勝】

大日向商会2―1阿部建材

◇ソフトボール

【地域対抗・参加七チーム・決勝】

老方　12―3　玉米

◇陸上競技

【男子一〇〇㍍】

①佐藤順一（老方）②阿部重雄（蔵新田）③遠藤広男（法内）

【女子一〇〇㍍】

①遠藤栄子（館西）②伊藤キヌ子（横渡）③小松トヨ子（黒沢）

【男子一、五〇〇㍍】

①阿部吾郎（横渡）②阿部英男（杉森）③千葉憲一（黒沢）

【地区対抗男子四〇〇㍍リレー】

①玉米②宿③住吉

【地区対抗女子四〇〇㍍リレー】

①玉米②宿③蔵

【地区対抗男子八〇〇㍍リレー】

①老方②住吉③蔵

【職場対抗男子四〇〇㍍リレー】

①役場②郵便局③東北化工

【職場対抗女子四〇〇㍍リレー】

①共和電子②森林組合③東北化工

▼武道会による演武。柔道の業を披露

▼上、武道会による演武。唐手の型を披露　下、中学新校舎をバックに行なわれたソフトボール